（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	しょうせい式児童発達支援・放課後等デイサービス　ぷりん甲南山手			
○保護者評価実施期間	令和６年１２月１日		～	令和７年１月　２５日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	53	（回答者数）	50
○従業者評価実施期間	令和６年１２月１日		～	令和７年１月　２５日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	15	（回答者数）	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　１月　３１日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の子どもに対して手厚い支援が行うことができている。 個別の関わりを重視した支援の在り方を構築している。	個別支援計画・フェイスシートだけでなく、学校や相談支援事業所・保護者と連携しながら、それぞれの子どもにとって何が必要な支援であるかを指導員・児発管などのスタッフが常に協議の上吟味・検討を重ねながら支援にあたっている。	・複数利用の児童について、事業所間の連携を図っていきより効果的な支援を行っていく。定期的なオープンデイを実施する等、保護者等の支援への積極的参加を促していく。 ・家庭連携の充実（家庭訪問）
2	心理士による専門的な集団療育を実践できている。	・専門的支援スタッフが常駐していることで、フォーカシングやSST、フィードバックなどを積極的に行った。日々行うことで、児童も集中して取り組めるようになってきた。	・心理的な専門療育の充実を図っていきたい。 ・運動プラグラムや、言語療育などの専門的支援への取り組みを進めたい。
3	子どもたちがより良い人間関係を築いていくことができる雰囲気づくりができている。	・利用人数を１０→２０人に増やしたことで、児童にとってより幅広い他者との関わり合いが可能となった。より多い人数の中でのコミュニケーションの構築が可能となっている。 ・積極的な課外活動の実施を通して、集団の中で自分で指示をよく聞いて行動ができるようになってきている。	・体験、課外活動などのプログラムを児童の力で企画立案できるような話し合い活動の実践を行いたい。 ・学校場面を想定した支援の充実を計画する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個々の児童に対して、職員同士の情報共有の精度を上げることが課題となっている。	利用人数が多いことが要因。	情報共有の手段の効率化を図り、円滑な情報共有を図れるようにする。
2	多様な児童に対して、一人一人に応じた個別支援プログラムの構築が必要となってくる。	人数が多いこと、障害特性の多様性	障害特性・年齢に応じグルーピングを行い、それに対応してチーム体制を組んで対応する個別支援の計画を構築していく。
3	活動スペースの効果的な配置 （クールダウン・個々の児童と静かに面談できる場所）	活動場所の区切りが無い（オープンスペースである）こと	間仕切りを設ける、荷物をしまっておくガレージを設置するなどして、室内空間をより幅広く使えるように空間設計していく。